B37 奄美大島のクマネズミが屋外でタンカン樹皮をかじる理由
矢部辰男（神奈川衛研）

A reason for bark-stripping of tankan (*Citrus tankan*) by the roof rat (*Rattus rattus*) in Amami Oshima
Yabe T.

南西諸島の奄美大島で1997年4月から10月にかけて、クマネズミ (*Rattus rattus*) によるタンカン (*Citrus tankan*) の剥皮被害が発生した。9月にタンカン園周囲で得たクマネズミでは、胃内容物中のタンカン樹皮の師部が、容量比にして平均8.9%を占めた (n=18)。胃内容物にタンカン樹皮の外皮は見いだされず、師部のみが確認され、しかも排泄された糞は師部の繊維で満たされていた。したがって師部の消化は不完全であり、師部を食べる主要目的は樹液を得ることにあると推測された。大島ではこのかんきつ類を長年栽培してきたが、クマネズミによる剥皮被害の発生は初めてである。1997年は降水量が平年に比べて非常に少なかったもので、渇きをいやすことが樹液を求めた一因と思われる。

B38 サシチョウバエのシトクロームCオキシダーゼサブユニット1遺伝子の塩基配列について(3)

村主節雄[○]（香川医大・医動物）、原田正和（香川医大・医動物）、岡本宗裕（阪大・医・動物実験）、橋口義久（高知医大・寄生虫）

Nucleotide Sequence Variations in the Cytochrome C Oxidase Subunit I Gene within *Lutzomia* Species (Sand Fly)(3)

Suguri S., Harada M., Okamoto M., and Hashiguchi Y.

2種エクワドル産サシチョウバエ *Lutzomia hartomanni* および *Lutzomia ayacuchensis* のミトコンドリアDNA中のシトクロームCオキシターゼサブユニット1 (CO1) 遺伝子の塩基配列の種間比較をPCR法及びDirect Sequence法を用いて行った。プラナリアのCO1遺伝子用に設計されていたプライマーを用いPCRを行い、1%アガロース電気泳動による約450塩基対の一本バンドを切り出し、ABI社のDye Terminator Cycle Sequence Kitによりシーケンス反応を行った。その反応物をABI社製オートシーケンサーにより383塩基の配列を読み取った。その結果383塩基中この両者間に44箇所の相違が見られた。また、代表種の *Lutzomia hartomanni* の塩基配列について検索したところ、この領域の *Positive Identity* は *Drosophila neopicta* のものと共に82%を示した。

（研究協力者；Eduardo A. Gomez L（エクアドル・カトリカ大・熱帯医学）、細川 篤、丸野元美（琉球大、医、皮膚）